

科目名 (英)	はりきゅう実技Ⅱ Practice of Acupuncture and MoxibustionⅡ	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	
学科・コース	鍼灸科	授業形態	講義	総時間 (単位)	90 2	開講区分	後期
【授業の学習内容】							
<p>はりきゅう実技Ⅱでは前期に学んだ基礎技術や解剖学的知識を基に、臨床において最も愁訴の多い頸や肩、腰の疾患に対しての治療を現代医学、東洋医学の両方から行うことができる技術を修得する。 東洋医学的な診察法や穴性を活かした刺鍼、補瀉の手技が行えるようになる。 各種手技や美容鍼灸で求められるスキルであるオイルトリートメントが行えるようになる。</p> <p>実務実績 笹尾 大阪医療技術学園付属鍼灸センターや付属治療院などでの勤務、診察から治療までの業務に従事 資格、はり師・きゅう師 実務実績 竹内 付属治療院、POSCなどの勤務、診察から治療までの業務に従事 資格 はり師・きゅう師、あんまマッサージ指圧師</p>							
【到達目標】							
<p><具体的な目標> 解剖学的知識を基にした正確な触診技術を身に付け、筋の緊張や硬結を触知しながら施術することができる。</p> <p>①頸、肩、腰下肢に安全かつ衛生的に施術できる。 ②舌診や脈診、腹診を正しい方法で行うことができ、所見から関連する病証を答えることができる。 ③各種手技やオイルトリートメント行うことができる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	後期実技概要の目的、評価を理解することができる。
2回目	視診・触診を通して姿勢や動作のチェックを行うことができる。
3回目	チェックした姿勢や動作を分析し、考察することができる。
4回目	頸部の解剖と触診法を理解し、行うことができる。
5回目	頸部の解剖と触診法を理解し、行うことができる。
6回目	頸部の解剖を理解し、圧痛や硬結を探りあてて施鍼することができる。
7回目	頸部の解剖を理解し、圧痛や硬結を探りあてて施鍼することができる。
8回目	肩背部の解剖と触診法を理解し、行うことができる。
9回目	肩背部の解剖を理解し、圧痛や硬結を探りあてて施鍼することができる。
10回目	経筋治療を理解し、行うことができる。
11回目	これまで学んだ頸肩部の施鍼を組み合わせることで頸肩部の評価を行い、治療することができる。
12回目	これまで学んだ頸肩部の施鍼を組み合わせることで頸肩部の評価を行い、治療することができる。
13回目	頸肩部への手技療法を理解し、実践できる。
14回目	頸肩部への手技療法を理解し、実践できる。
15回目	腰臀部の解剖と触診法を理解し、行うことができる。
準備学習 時間 外学習	(目標①)前提:この授業を受けるには、主に解剖学(筋、骨、関節など)、東洋医学概論、鍼灸診察学Ⅰの知識が必要。 (目標②)学習は予習を中心に行うこと。授業当日に触れる筋肉の走行や形状を理解し、それらをイメージしながら触診や刺鍼を行うこと。 (目標③)授業中に説明した内容をメモしておき、相互の繋がりがりや大事なポイントを中心に押さえる。
評価方法	成績の評価は小テスト・実技テスト・筆記テストあわせて100点満点とする。
受講生 へのメッ セージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書: ずっと使える! 鍼灸臨床BOOK(滋慶出版/つちや書房)、鍼灸療法技術ガイド(文光堂)	
参考書: 解剖学(医歯薬出版株式会社) 東洋医学概論(東洋療法学校協会)	

科目名 (英)	はりきゅう実技Ⅱ Practice of Acupuncture and Moxibustion II	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	
学科・コース	鍼灸科	授業形態	講義	総時間 (単位)	90 2	開講区分	後期
【授業の学習内容】							
<p>はりきゅう実技Ⅱでは前期に学んだ基礎技術や解剖学的知識を基に、臨床において最も愁訴の多い頸や肩、腰の疾患に対しての治療を現代医学、東洋医学の両方から行うことができる技術を修得する。 東洋医学的な診察法や穴性を活かした刺鍼、補瀉の手技が行えるようになる。 各種手技や美容鍼灸で求められるスキルであるオイルトリートメントが行えるようになる。</p> <p>実務実績 笹尾 大阪医療技術学園付属鍼灸センターや付属治療院などでの勤務、診察から治療までの業務に従事 資格 はり師・きゅう師 実務実績 竹内 あい鍼灸整骨院や付属治療院、POSCなどの勤務、診察から治療までの業務に従事 資格 はり師・きゅう師、あんまマッサージ指圧師</p>							
【到達目標】							
<p><具体的な目標> 解剖学的知識を基にした正確な触診技術を身に付け、筋の緊張や硬結を触知しながら施術することができる。</p> <p>①頸、肩、腰下肢に安全かつ衛生的に施術できる。 ②舌診や脈診、腹診を正しい方法で行うことができ、所見から関連する病証を答えることができる。 ③各種手技やオイルトリートメント行うことができる。</p>							

授業計画・内容	
16回目	腰腎部の解剖と触診法を理解し、行うことができる。
17回目	腰腎部の解剖を理解し、圧痛や硬結を探りあてて施鍼することができる。
18回目	腰腎部への手技療法を理解し、実践できる。
19回目	これまで学んだ腰腎部の施鍼を組み合わせ、腰腎部の評価を行い、治療することができる。
20回目	これまで学んだ腰腎部の施鍼を組み合わせ、腰腎部の評価を行い、治療することができる。
21回目	上半身のオイルトリートメントを学び、実践することができる。
22回目	上半身のオイルトリートメントを学び、実践することができる。
23回目	下半身のオイルトリートメントを学び、実践することができる。
24回目	下半身のオイルトリートメントを学び、実践することができる。
25回目	舌診を理解し、実践できる。
26回目	脈診を理解し、実践できる。
27回目	腹診を理解し、実践できる。
28回目	背候診を理解し実践できる。
29回目	切経を理解し、実践できる。
30回目	揣穴法を理解し、実践できる。
準備学習 時間 外学習	(目標①)前提:この授業を受けるには、主に解剖学(筋、骨、関節など)、東洋医学概論、鍼灸診察学Ⅰの知識が必要。 (目標②)学習は予習を中心に行うこと。授業当日に触れる筋肉の走行や形状を理解し、それらをイメージしながら触診や刺鍼を行うこと。 (目標③)授業中に説明した内容をメモしておき、相互の繋がりや大事なポイントを中心に押さえる。
評価方法	成績の評価は小テスト・実技テスト・筆記テストあわせて100点満点とする。
受講生 へのメッ セージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書: ずっと使える! 鍼灸臨床BOOK(滋慶出版/つちや書房)、鍼灸療法技術ガイド(文光堂) 参考書: 解剖学(医歯薬出版株式会社) 東洋医学概論(東洋療法学校協会)	

科目名 (英)	はりきゆう実技Ⅱ Practice of Acupuncture and Moxibustion II	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	
学科・コース	鍼灸科	授業形態	講義	総時間 (単位)	90 2	開講区分	後期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】

はりきゆう実技Ⅱでは前期に学んだ基礎技術や解剖学的知識を基に、臨床において最も愁訴の多い頸や肩、腰の疾患に対しての治療を現代医学、東洋医学の両方から行うことができる技術を修得する。
東洋医学的な診察法や穴性を活かした刺鍼、補瀉の手技が行えるようになる。
各種手技や美容鍼灸で求められるスキルであるオイルトリートメントが行えるようになる。

実務実績 笹尾 大阪医療技術学園付属鍼灸センターや付属治療院などでの勤務、診察から治療までの業務に従事
資格、はり師・きゆう師
実務実績 竹内 あい鍼灸整骨院や付属治療院、POSCなどの勤務、診察から治療までの業務に従事
資格 はり師・きゆう師、あんまマッサージ指圧師

【到達目標】

<具体的な目標>

解剖学的知識を基にした正確な触診技術を身に付け、筋の緊張や硬結を触知しながら施術することができる。

- ①頸、肩、腰下肢に安全かつ衛生的に施術できる。
- ②舌診や脈診、腹診を正しい方法で行うことができ、所見から関連する病証を答えることができる。
- ③各種手技やオイルトリートメント行うことができる。

授業計画・内容

31回目	様々な補瀉手技を理解し、実践できる。
32回目	切経と揣穴と補瀉手技を組み合わせ、実践できる。
33回目	手の陽経に対して切経と揣穴と補瀉手技を組み合わせ、実践できる。
34回目	手の陰経に対して切経と揣穴と補瀉手技を組み合わせ、実践できる。
35回目	足の陽経に対して切経と揣穴と補瀉手技を組み合わせ、実践できる。
36回目	足の陰経に対して切経と揣穴と補瀉手技を組み合わせ、実践できる。
37回目	体幹の特定穴に対して手技を用いた刺鍼を行うことができる。
38回目	弁証論治のやり方を理解し、説明できる。
39回目	弁証トレーニング① いくつかの症例をもとに弁証を立てることができる。
40回目	弁証トレーニング② いくつかの症例をもとに弁証を立てることができる。
41回目	治療トレーニング①これまで学んだ解剖学的な施鍼、手技、東洋医学的治療法などを組み合わせ診断→治療計画→治療→評価までの一連の流れを考え実践することができる。
42回目	治療トレーニング②これまで学んだ解剖学的な施鍼、手技、東洋医学的治療法などを組み合わせ診断→治療計画→治療→評価までの一連の流れを考え実践することができる。
43回目	治療トレーニング③これまで学んだ解剖学的な施鍼、手技、東洋医学的治療法などを組み合わせ診断→治療計画→治療→評価までの一連の流れを考え実践することができる。
44回目	治療トレーニング④これまで学んだ解剖学的な施鍼、手技、東洋医学的治療法などを組み合わせ診断→治療計画→治療→評価までの一連の流れを考え実践することができる。
45回目	治療トレーニング⑤これまで学んだ解剖学的な施鍼、手技、東洋医学的治療法などを組み合わせ診断→治療計画→治療→評価までの一連の流れを考え実践することができる。
準備学習 時間 外学習	(目標①)前提:この授業を受けるには、主に解剖学(筋、骨、関節など)、東洋医学概論、鍼灸診察学Ⅰの知識が必要。 (目標②)学習は予習を中心に行うこと。授業当日に触れる筋肉の走行や形状を理解し、それらをイメージしながら触診や刺鍼を行うこと。 (目標③)授業中に説明した内容をメモしておき、相互の繋がりや大事なポイントを中心に押さえる。
評価方法	成績の評価は小テスト・実技テスト・筆記テストあわせて100点満点とする。
受講生 へのメッ セージ	

【使用教科書・教材・参考書】

教科書: ずっと使える! 鍼灸臨床BOOK(滋慶出版/つちや書房)、鍼灸療法技術ガイド(文光堂)

参考書: 解剖学(医歯薬出版株式会社)

東洋医学概論(東洋医学社)

